

世界：大手石油会社の再エネ投資に拡大の動き、 ただし業界全体では伸び悩み

新エネルギー・国際協力支援ユニット
新エネルギーグループ

世界の主要な石油会社が、再生可能エネルギーへの投資拡大に向けて新たな動きを見せている。

フランスの石油最大手 Total 社は 4 月 19 日、新たな組織計画¹の一環として、再エネの分野で今後 20 年間に達成すべき 4 つの目標を掲げた：(1) ソーラー発電でトップ 3 に入ること、(2) 電力取引とエネルギー貯蔵の事業を拡大すること、(3) バイオ燃料（特にバイオジェット燃料）で主導的役割を果たすこと、(4) 他の再エネについても開発を検討すること。同社は昨年 9 月、再エネ事業に年間 5 億ドルを投資する方針を表明した後、今年 3 月に発表した 2015 年の年次報告書の中でも、太陽光発電（PV）事業を中心に今後も再エネへの投資を強化すると述べていた。

Total は 2011 年に、米国のソーラーパネル製造大手 SunPower 社の多数持株（約 60%）を 14 億ドルで取得した。Total 傘下に入った SunPower は、2013 年に稼働した米カリフォルニア州の大規模 PV プロジェクト²で EPC 契約を結んでいる。SunPower はまた、今年 3 月末に行われたメキシコ初の民間再生可能エネルギー入札で約 500MW³の PV プロジェクトを落札するなど、海外でも積極的に PV 事業を展開している。

また、カナダの石油大手 Suncor 社は 3 月下旬、同社初の PV 事業として、アルバータ州に発電設備容量 80MW の PV プラント 3 カ所（計 240MW）の建設許可を申請した。同社はすでに国内で 6 カ所の風力ファームを稼働させている。ほかにも、ノルウェーの石油最大手 Statoil 社は今年 2 月、今後 4~7 年間で再生可能エネルギーに最大 2 億ドルを投資する計画を発表した。Statoil は特に欧州の洋上風力発電事業に力を入れており、英国に Sheringham Shoal プロジェクト（317MW）を保有するほか、2013 年には同じく英国の Dungeon プロジェクト（402MW）の多数持株（70%）を取得している。さらに、すでに北米や欧州で風力発電事業に参画している英蘭系の Royal Dutch Shell 社は今年 3 月、新たにオランダの大規模洋上風力プロジェクトに出資を検討していると報じられた。

大手石油会社の再エネ事業参入は、1990 年代末から 2000 年代にかけて活発化し、多くの

¹ ガス、再エネ、および電力を取り扱う第 4 の事業セグメントを設立する計画。Total プレスリリースを参照：

<http://www.total.com/en/media/news/press-releases/total-presents-new-organization-achieve-its-ambition-becoming-responsible-energy-major>

² California Valley Solar Ranch プロジェクト（250MW）

³ Yucatán 州で約 400MW、Guanajuat で 100MW 超

企業がバイオ燃料を始め、ソーラー、風力、地熱などの発電事業や、水素・燃料電池などの研究開発に着手した。石油会社が再エネへの投資を行う背景には、価格変動の大きい石油への依存から脱却し、事業ポートフォリオを多様化する必要に迫られている状況がある。特にここ 1-2 年は、石油価格の下落による企業収益の大幅な低下、再エネのコスト低下による収益性・競争力の向上、さらには各国政府が進める気候変動・脱化石燃料政策などが再エネ投資のインセンティブになっている。

とはいえ、全体的には石油会社の総投資額に占める再エネの比率はまだ低く、同部門はやや伸び悩んでいる。前述の Total の場合、計画している年間 5 億ドルの投資は、同社の今年の総投資額 240 億ドルの 2%程度に過ぎない。また、Shevron や ExxonMobil など石油大手を擁する米国では近年、シェール・ブームの陰で石油会社による再エネ投資は停滞した。ExxonMobil と ConocoPhillips の場合、再エネ関連の事業活動は米国政府が義務付けるバイオ燃料の生産にほぼ限られている。石油業界全体としては、再生可能エネルギーへの投資は依然低い水準にとどまっている。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp